

## 予防接種



### 予防接種とは？ ワクチンとは？

ウイルス、細菌などが人間の体に入り、それが増えることによって起こる病気を「感染症」といいます。感染症にならないように、あらかじめワクチンを接種して、免疫力(抵抗力)を高めておくことを予防接種といいます。

免疫は、ウイルス、細菌など、自分以外の異物が体に侵入したときに、その異物を排除しようとする体の防御反応です。ワクチンは、病原体などの毒性を弱めたり失わせたりしたもので、これを予め接種して、免疫反応を記憶させておけば、本物の病原体が入ってきた時に、速やかに免疫による防衛反応が働き、発病を防ぐことができます。

ただし、予防接種で、多くの人がある疾病に対する免疫を獲得しますが、その免疫効果は決して100%ではないことを知っておいてください。

### ワクチンには「生ワクチン」と「不活性化ワクチン」があります

#### 生ワクチン

生きたウイルスや細菌の毒性などを弱めて作ったワクチン。効果を得やすいが、摂取後その病気の症状が軽く出てくることがある。

別の予防接種を受ける場合は、27日以上間隔をあける

#### 不活性化ワクチン

毒性をなくした病原体やその成分で作ったワクチン。効果は弱いため、何度かの接種が必要になることが多い。

別の予防接種を受ける場合は、6日以上間隔をあける

### 予防接種には「定期」と「任意」があります

#### 定期予防接種

原則として無料(対象年齢であれば公費負担)。感染力が強かったり、重症になりやすい病気であるため、法律で接種するよう定められている。したがって、対象年齢になったら受けることが強く推奨されている。

#### 任意予防接種

基本的に自己負担(公費助成がある場合も)。受けるか受けないかは個人の判断に任されている。

### 主な予防接種(定期予防接種)

予防接種の種類	定期接種の対象	接種回数
インフルエンザ菌b型(ヒブ Hib)	2ヶ月～5歳未満	初回3回 + 追加1回
小児用肺炎球菌	2ヶ月～5歳未満	初回3回 + 追加1回
BCG(結核)★	2ヶ月～1歳未満	1回
4種混合(ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ)	3ヶ月～90ヶ月未満	初回3回 + 追加1回
3種混合(ジフテリア、百日咳、破傷風)	※[4種混合]あるいは、[3種混合+ポリオ]のどちらか一方を接種	
ポリオ		



予防接種の種類	定期接種の対象	接種回数
麻疹・風疹 (MR)★	1期 12ヶ月～24ヶ月未満	1回
	2期 5歳～7歳未満で 小学校就学前1年間	1回
日本脳炎	1期 6ヶ月～90ヶ月未満	初回2回+ 追加1回
	2期 9歳～13歳未満	1回
※平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれで 4回の接種が終わっていない場合は、20歳 未満まで対象となる。		
子宮頸がん	ガーダジルの場合 初回接種の2ヶ月後、6ヶ月後の 3回接種。 9歳以上の女性	3回
	サーバリックスの場合 初回接種の1ヶ月後、6ヶ月後の 3回接種。 10歳以上の女性	3回
	※中学1年で受けるのが標準的。	

★マークは「生ワクチン」。それ以外は、「不活性化ワクチン」。

- 2013年4月1日より、ヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸(けい)がんの3ワクチンが定期接種となりました。
- 接種時期になると保健所から通知が来ます。子供の体調をみながら必ず受けるようにしましょう。<sup>1)</sup>
- ヒブと小児肺炎球菌、BCGなど、接種の時期が重なる場合は、数種類の予防接種を同時に受けることができる「同時接種」が効率的です。

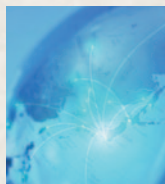
## 任意で受けられる予防接種

- インフルエンザ、ロタウイルス、みずぼうそう、おたふくかぜ、B型肝炎などがあります。
- 高齢者(65歳以上の方)は、インフルエンザと肺炎球菌ワクチンを受けましょう。
- 妊娠を希望する若い女性やパートナーの男性は、風疹ワクチンを受けましょう。

海外渡航の際には、国によって予防接種が義務付けられている場合があります。<sup>3)</sup>

主なワクチン：黄熱、A型肝炎、B型肝炎、破傷風、狂犬病、ポリオ、日本脳炎

定期の予防接種について、年齢相応のものが全て終了しているか渡航前に必ず確認してください。



Before

### ワクチンを受ける前の注意点<sup>2)</sup>

予防接種は体調の良い時に受けましょう。  
以下の場合、受けることができない場合があります。

- 当日、熱(37.5℃以上)がある
- 前日、高い熱を出したとか、急性の重い病気にかかっている

その他、過去に予防接種や薬でアレルギーが起きたことがある場合や、持病で通院している場合は必ず事前に医師に伝えてください。少しでも不安がある場合は、接種を受ける前に医師に相談してください。

After

### ワクチンを受けた後の注意点<sup>2)</sup>

- 副反応は、接種直後に起こることがあります。予防接種を受けたあと30分間は、接種場所でお子さんの様子を観察しましょう。やむを得ず、帰宅する場合は、すぐに医師と連絡がとれるようにしておきましょう。
- 生ワクチンでは3週間、不活化ワクチンでは24時間は副反応の出現に注意して、観察しましょう。
- 接種当日は激しい運動はしないようにしましょう。
- 入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすらないよう注意しましょう。

## 予防接種の副反応(副作用)について

予防接種後に好ましくない症状が出ることを副反応(副作用)といいます。最も多いのは、「接種した所が赤くなる」「熱が出る」などですが、そのほとんどが、一時的な症状で、2～3日で自然に消えます。重度の副反応はきわめて稀です。万が一、副反応が出たと思ったときは、接種した医師にご相談ください。

【引用・参考文献】 1) 国立感染症情報センター：予防接種のページ  
 2) 一般社団法人日本ワクチン産業協会：ワクチンについて、  
 3) 厚生労働省検疫所 FORTH：海外渡航者のための予防接種  
<http://www.forth.go.jp/useful/attention/02.html>  
 4) SAFE-DI：クローズアップ情報 ワクチン、  
 5) 武田薬品工業株式会社：予防接種・ワクチンのおはなし

